

おかあさんに学び、東北復興を応援しよう!



宮城県石巻市長面浦周辺 (旧河北町～2005年、旧大川村～1955年)

旧大川村は北上川河口付近南岸の半農半漁の村。河口脇にある長面浦は三方を囲む山から養分が流れ込み、牡蠣の育ちが早く1年で成長・出荷する(一年子という)。東日本大震災では110台の養殖いかだのうち30を残して壊滅。地盤沈下により長面地区の水田は水没。河口から約4キロ上流の大川小学校には河川堤防を越えて津波が押し寄せ、全校児童108人のうち74人が、校内にいた教職員11人のうち10人が犠牲となった。



おかあさんの宿 ② 宮城県石巻市

坂下 清子さん

民宿 のんびり村

いくら考えても整理はつかない。それでも前に進みたい。

津波のときは並びのお寺に上がって、湾の向かいの集落を見ていたんです。津波が押し寄せて、まさか家が、ガシャンガシャンと壊れていく光景を見ながら…目の前が真っ暗だった。それから百数十名がお寺で過ごして、4日後にヘリコプターで救助されました。いくら振り返っても、何があったんだって。あの人も、あの人も。思い出す人はみんな亡くなった。友達も、親戚も、子どもたちも…。名前を聞くのが怖

かった。考えても考えてもどうにもならない、けど、考える。百箇日が過ぎるまで…お盆が過ぎるまで…って思っても、やっぱり整理はつかなくて。亡くなった人を思う気持ちと、前に進まないという気持ちが入り交じって、今日まできました。ただひとつ、牡蠣が残ったことが励みになった。組合で共同出荷できることになってね。へたばつられるかと、みんな頑張ってるのさ。



仲間感謝、この地で暮らせることに感謝。震災の語り部になる。

震災の後すぐ、おかあさん100選の仲間が駆けつけてくれてね。泥を出して掃除して。仲間ってこんなにあり難いものかと思った。電気も水道もないけど、なんとか住める。水は運ばばいいし、灯りはランプがある。ちょっと昔に戻ったと思えばいい。これからの私たちは津波とは切り離せない。うちに

泊まりに来る方は、津波災害の怖さを見たい思いと、亡くなった人の霊に手を合わせたいという両方の思いで来られると思う。だから私は、この豊かな海から採れたものをお出しして、津波の恐怖や、亡くなった人への思いや、人との絆や、この経験から得た大切なことを伝えたいと思うんです。



牡蠣と海の幸を、味わってください!!

牡蠣を食べながら震災のお話を聞く。「のんびり村」

新北上橋のたもとから曲がりくねった坂道を下ると、すぐに大川小学校がある。それともう1棟、鉄筋コンクリート造の医院以外は、延々と砂漠のように何も無い。脇の道を先に進む。山の陰から土台が水没した集落が現れ、その先にのんびり村がある。集落の人々はみな

避難したまま、戻る住人はまだいない。この地にのんびり村の原点となる「浜の食堂」をオープンしてから18年。その場所で坂下さん夫妻は強い意志と覚悟をもって、宿の再開を目指す。とりわけ美味い長面浦の牡蠣と海の幸を食べながら、心してお話を聞きたい。

